

国土の繁栄と平和をまもろう

本会は自衛隊員の激励及び慰問、退職隊員の就職協力等を行うと共に自衛隊の諸行事に協力し隊員との親睦を図り、防衛思想の普及並びに隊員の健全な育成発展に協力するを目的とする。

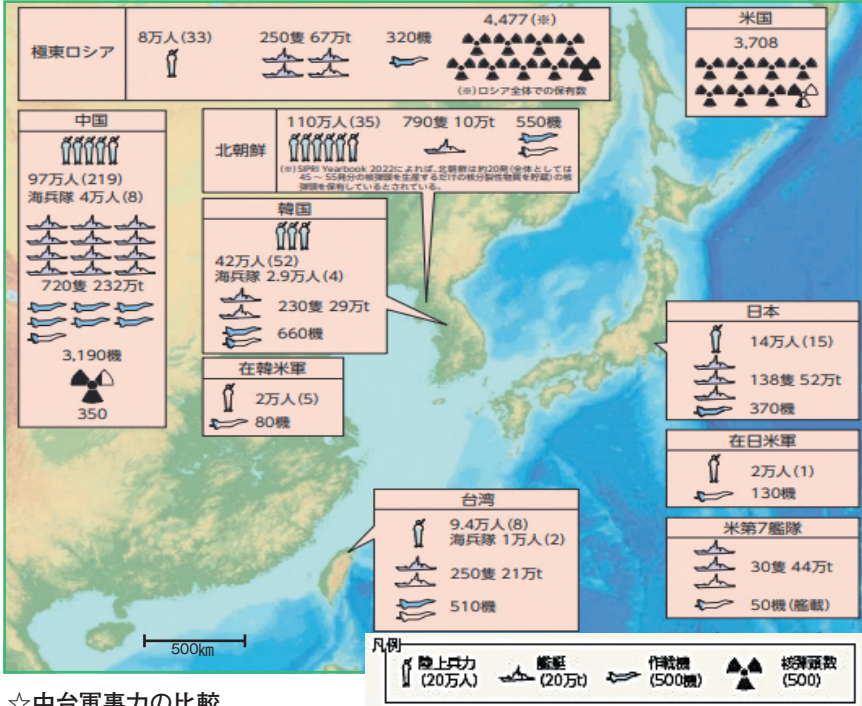


第 224 号
令和5年10月1日
発行所 大阪防衛協会
(〒541-0041) 大阪市中央区北浜3丁目5番19号
淀屋橋ホワイトビル701号
TEL06-6202-8284
E-mail:ek@ace.odn.ne.jp
発行人 井上礼之
編集責任者 蛭原康治
印刷所 (株)DNPメディアサポート

我が国周辺で何が起こっているのか？(Ⅷ)

(第2面に「最近の世界の動き」を掲載)

☆わが国周辺における主な兵力の状況(概数)



☆朝鮮半島における軍勢力

(令和5年 防衛白書から抜粋)

	北朝鮮	韓国	在韓米軍
総兵力	約128万人	約56万人	約3万人
陸軍			
陸上兵力	約110万人	約42万人	約2万人
戦車	T-62、T-54/-55など 約3,500両	M-48、K-1、T-80など 約2,150両	M-1A2SEPV2
海軍			
艦艇	約790隻 10万トン	約230隻 29万トン	支援部隊のみ
駆逐艦		12隻	
フリゲート	6隻	14隻	
潜水艦	21隻	19隻	
海兵隊		約2.9万人	
空軍			
作戦機	約550機	約660機	約80機
第3/4/5世代戦闘機	MiG-23×56機 MiG-29×18機	F-4×29機 F-16×161機 F-15×59機 F-35×40機	F-16×60機
人口	2,596万人	5,184万人	
兵役	男性 10年 女性 7年	陸軍 18か月 海軍 20か月 空軍 21か月	

☆日本の領空・領海・排他的経済水域



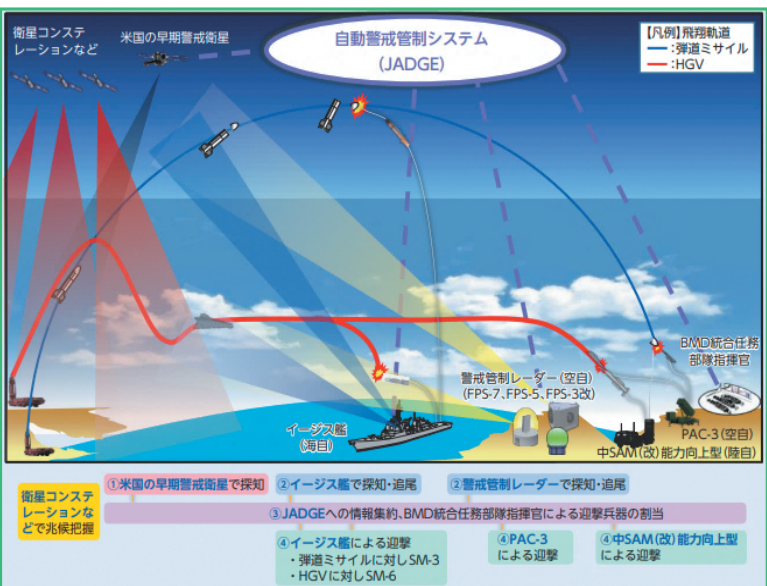
☆中台軍勢力の比較

	中国	台湾
総兵力	約204万人	約17万人
陸上戦力		
陸上兵力	約97万人	約9万4千人
戦車等	99/A型、96/A型、 88A/B型など 約6,050両	M-60A3、CM-11など、 約750両
海上戦力		
艦艇	約720隻 約230万トン	約250隻 約21万トン
空母・駆逐艦・フリゲート	約90隻	約30隻
潜水艦	約70隻	4隻
海兵隊	約4万人	約1万人
航空戦力		
作戦機	約3,200機	約510機
近代戦闘機	J-10×588機 Su-27/J-11×329機 Su-30×97機 Su-35×24機 J-15×60機 J-16×262機 J-20×140機 (第4・5世代戦闘機 合計1,500機)	ミラージュ 2000×54機 F-16 (A/B) ×77機 F-16 (改修V型) ×63機 経国×127機 (第4世代戦闘機 合計321機)
人口	約14億2,000万人	約2,350万人
兵役	2年	2018年末より志願兵制に移行(適齢男性に対する4か月の軍事訓練義務は維持)していたものの、2024年より適齢男性に対する兵役を再開することを決定(任期1年)

☆わが国周辺海空域における最近の中国軍の主な活動(イメージ)



☆統合防空ミサイル防衛(迎撃部分)のイメージ図



文化芸能人による

幻の「自衛隊友の会」

自衛隊に対する熱き心！

終戦後20年、今から約60年前の昭和四十年二月文化芸能人による自衛隊応援団が発足した。

当時それぞれの分野の第一戦で活躍する作家・作曲家・俳優・歌手・漫才・タレント等ばかりで、どちらかといえば冷たく扱われた自衛隊にとってこれほど心強い存在はなかったと思われる。

その後の去就は定かでないが、さて皆さん何人位御存じか？数えてみて下さい。

自衛隊友の会役員連名

会長

川内康範（作家・作詞「月光仮面」「日本昔話」等）

副会長

三船敏郎（俳優 世界のミフネ「7人の侍」「羅生門」）

伴淳三郎（喜劇俳優）

宝井馬琴（講談師）

コロンビアトップ（漫才）

理事長

ジョージ川口（ド라마ー）

監事 三橋達也（俳優）

事務局長 南道郎（俳優）

理事

一龍齋貞鳳（講談師） 相模太郎（浪曲）三遊亭小金馬（落語）江戸屋猫八（落語）古今亭志ん朝（落語）加東大介（俳優）小林桂樹（俳優）小林旭（俳優 歌手「渡り鳥」シリーズ「熱き心」）ハナ肇（俳優 クレージー・キャッツ）滝原健之（歌手）

「自衛隊友の会」趣意書

私達日本の国民として祖国の平和と安泰、同胞・子孫の繁栄を願わぬものはありません。ここにわが国の平和と独立を守る任務に服する陸海空自衛隊は発足以来すでに5年を迎え、着々と実力を養成し、黙々として国土防衛の大任を旗うとともに、度重なる災害出動、及び遭難救助等の献身的な活動は全国民の等しく認めるところであります。

又昨年の東京オリンピックにおいて陸海空自衛隊の協力なる支援により絶大なる成果を上げたことは、また耳新しい事実であります。翻って世界この緊迫した状況にあつての情勢は今日なお多難を極め、東南アジア等でたえざる戦火が続く、東西の話し合いのムードの中にも過酷なる戦闘が展開されている状況であります。かかる情勢において我が国に今後いかなる急変自体も怒らないと断言することはできません。

自衛隊友の会会長 川内康範

この緊迫した情勢にあつて私たちの美しい国日本を育て上げ、そして次の世代に伝えてゆく責任は誠に重大なるものがあり、この責任は自衛隊のみの任務ではなく、当然私共全国民が等しく背負わなければならない処であります。

しかるに極く一部に、自衛隊の実態を理解せず、その存在を無視する者さえあることは、誠に遺憾とするところであります。

ここにおいて、文化・芸能に携わる私達が先達となり、全国民とともに融和親睦をはかり、自衛隊になお一層の理解を深め、全自衛官諸氏の精神的支援はもとより、あらゆる行事活動に積極的な協力を惜しまず、その健全な発展に寄与し、憂いなき防衛態勢を築き、世界平和に貢献できれば、これに過る喜びはありません。

何卒、右の趣旨を御諒承の上御賛同を賜りたくお願い申し上げます。

会 員（応援団）

青島一郎（俳優）青木光一（歌手） 芦屋雁之助（漫才） 芦屋小雁（漫才） 明智十三郎（俳優） 鮎川浩（俳優） 天田俊明（俳優） 赤木良輔（歌手） 青空千夜（漫才） 青空一夜（漫才） 安達国晴（俳優） 梓みちよ（歌手） 東加代（俳優） 新井茂子（俳優） 淡島進（歌手） 井伊友三郎（俳優） 市村俊幸（俳優） 井上孝雄（俳優） 飯田久彦（歌手） 泉升生（タレント） 岩崎守尚（演出家） 池田駿介（俳優） 石川均（映画監督） 石田智（音楽） 伊東ゆかり（歌手） 石橋エータロー（俳優） 市川好郎（俳優） 伊藤素道（リズムミュージック）

飯田（歌手・作曲） 青山京子（俳優 小林旭夫人） 渡辺はま子（歌手「愛国の花」） はかま満緒（放送作家） 大和久守久（脚本家） 山岡荘八（作家「徳川家康」） 関敬六（コメディアン） 谷幹一（コメディアン） コロンビアライト（漫才） 古閑裕爾（作曲家） この国は「海を行く」「六甲おろし」「五輪マーチ」「長崎の鐘」「ああ栄冠は君に輝く」 丸尾長頭（作家・演出家） 大村昆（俳優 タレント） おおば比呂司（漫画家） 富永一朗（漫画家） 由利徹（喜劇俳優） 三木のり平（喜劇俳優） 大津美子（歌手） ここに幸あり 椰子てんや 漫才 瀬戸わんや 漫才 松崎薫（俳優） 南利明（喜劇俳優） 大空ヒット（漫才） ワタナベ正美（声帯模写） 鹿島密夫（歌手 ダイナショー） 石川進（歌手・俳優） 坂本九（歌手） 「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」 夢路いとし（漫才） 喜まこいし（漫才） 藤山寛美（松竹新喜劇俳優） 柳家小さん（落語） 林家正蔵（落語） 林家三平（落語） 三橋美智也（歌手） 「女船頭唄」

市川和子（俳優） 一ノ木真弓（俳優） 石志井寛（俳優） 石井亀二郎（俳優） 犬塚八郎（俳優） 一龍齋貞丈（講談師） 磯野秋雄（俳優） 上野保夫（俳優） 潮千砂（俳優） 桂仲治（落語） 江戸屋猫八（落語） 江島勉（アーティスト） 大塚周夫（俳優） 大津美子（歌手） 大内竜生（俳優） 大野幸吉郎（？） 大空ますみ（漫才） 大村文武（俳優） 折尾吉郎（俳優）

桂米丸（落語） 梶健司（俳優） かしまし娘（漫才） 金親堅太郎（漫画家） 神戸一郎（歌手） 川上のはる（俳優） 克美しげる（俳優） 金井克子（歌手） 関敬六（俳優） 北原謙二（俳優） 北あけみ（俳優） 金原亭馬生（落語） 喜味こいし（漫才） 南広（俳優） 久保明（俳優） 工藤堅太郎（俳優） 楠トシエ（歌手） 久里洋二（アニメ作家） 林家正楽（落語） 小宮恵子（歌手） 木村義雄（棋士名人） 古今亭今輔（落語） 小鹿敦（俳優） 堺俊二（俳優） 五月みどり（歌手） 櫻井美智夫（俳優） 猿若清方（舞踏家） 沢村美司（浪曲） 堺佐千夫（俳優） 沢井三郎（俳優） 佐々十郎（俳優） 佐伯徹（俳優） 坂本武（俳優） 佐原健二（俳優） 櫻井長一郎（芸人 生体模写） 里見浩太郎（俳優） 佐野修（歌手） 佐山俊二（俳優） 三遊亭歌奴（落語） 獅子てんや（漫才） 清水まどか（アナウンサー） 神田ろ山（講談師） 須藤健（俳優） ジェリー 藤尾（歌手） 世志凡太（作曲家） 瀬戸わんや（漫才） 都上英二（漫才） 園田哲也（アナウンサー） 園まり（歌手）

立籠児（タレント） 高松秀郎（俳優） 谷村正彦（俳優） 高橋元太郎（俳優） 田崎潤（俳優） 高島忠夫（俳優） 玉置宏（アナウンサー） 丹波哲郎（俳優） 立川寛（俳優） 立川談志（落語） 竹部薫（俳優） 田辺靖雄（歌手） 宝井馬琴（講談師） 田村高広（俳優） 高杉邦夫（漫才） 逗子とんぼ（俳優） 鈴木やすし（歌手 俳優） 茶川一郎（俳優） 千葉信男（俳優） 島田多恵子（俳優） 塩田英二郎（漫画家） 田端義夫（歌手） 津村愛子（俳優） 津川雅彦（俳優） 富永一朗（漫画家） 志直木みつ男（俳優） 長門勇（俳優） 永井秀明（俳優） 夏木陽介（俳優） 中丸忠雄（俳優） 中村光伸（俳優） 中村賀津雄（俳優） 中村竹弥（俳優） 並木一郎（歌手） 中尾ミエ（歌手） 永井三千夫（俳優） 西川鶴三（俳優） 西垣六郎（俳優）

橋幸夫（歌手） 旗照夫（歌手） 服部哲治（俳優） 花村菊江（歌手） 林与一（俳優） 葉山葉子（俳優） 半田幸一（俳優） 坂東好太郎（俳優） 林寛一（俳優） ハナ肇（俳優） バッキー白片とアロハハワイアンズ（歌手） 晴乃ピーチク（漫才） 晴乃パーチク（漫才） 左とん平（俳優） 人見明（俳優） 人見きよし（俳優） 平田昭彦（俳優） 船戸順（俳優） 富士真奈美（俳優） 藤本悠（俳優） 藤山一郎（歌手） 「長崎の鐘」 舟橋元（俳優） 福本勇（俳優） フォーコインズ（歌手） 藤田進（俳優） 藤村有弘（俳優） 堀雄二（俳優） 星野みよこ（歌手） 松村達雄（俳優） 松島アキラ（俳優） 増田多夢（俳優） 松美はじめ（俳優） 松田竹夫（？） 三砂直照（ジャズバンド） 三井弘次（俳優） 水島道太郎（俳優） ミッキーカーチス（歌手） 美川陽一郎（俳優） 南利明（俳優） 村田英雄（歌手） 守屋浩（歌手） 森光子（俳優） 森山かよ子（歌手）

安井昌二（俳優） 安川勝也（？） 矢代由美（俳優） 柳沢真一（歌手） 柳沢よしたね（タレント） 柳原良平（漫画家） 柳家三亀松（落語） 安田伸（コメディアン） 山内賢（俳優） 山中紘（俳優） 山本瞬一（俳優） 由利徹（俳優）

リーガル千太（漫才） リーガル天才（漫才） リーガル秀オ（漫才）

若原一郎（歌手） 若林映子（俳優） 若山昌子（ショーガール）

最近の世界の動き（2022～2023年9月）

	日本	ロシア・ウクライナ	中国・北朝鮮	西欧・東南アジア
2022	7.8 安部元首相凶弾に倒れる 9.27 安倍元首相国葬 11.17 日中首脳会談 12.16 国家安全保障戦略など3文書決定（反撃能力 GDP比2%防衛力強化）	2.24 露ウクライナに侵攻 3.23 ゼ大統領（ウ）国会演説 10.10 クリミア大橋爆発 10.12 露、ウ4州併合 11.9 露ヘルソン撤退命令 11.16 ポーランドにミサイル着弾 12.21 ゼレンスキー訪米	1.5～30 北相次ぎミサイル発射 2.4～20 北京冬季オリンピック 3.4～13 冬季北京パラ五輪 3.24 北ICBM「火星17」発射 8.4～8 中国台湾包囲軍事演習 10 中国共産党大会台湾問題「武力行使の放棄を約束せず」 12.31 北短距離弾道ミサイル発射	5.18 フィンランドスウェーデン NATO加盟申請 6.26 G7サミット（ドイツ） 6.29 NATO首脳会議（首相出席） 7.28 米中首脳会談 7.31 米ザワヒリ殺害 8.26 NPT会議露反対で決裂 9.8 エリザベス英女王逝去
2023	2.11 日米2プラス2 4.6 陸自ヘリ全員死亡 4.15 岸田首相に爆発物 4.20 スーダン邦人空自支援 5.8 新型コロナ「5類」移行 5.19 G7サミット広島開催 5.21 岸田・ゼレンスキー会談 6.14 陸自射撃訓練中銃撃 6.16 防衛財源法成立 7.3～7 沖縄県知事等訪中 7.10～16 九州秋田で集中豪雨 8.18 日米韓首脳会談（米） 9.4 辺野古法廷闘争に判決（沖縄） 9.13 第2次岸田内閣第2次改造内閣発足	1.25 独米がウに戦車供与 2.21 露新戦略兵器削減条約履行停止 3.21 岸田首相キウ訪問 3.21 中露首脳会談 3.25 露ベラルーシに核配備 6.6 露占拠のダム決壊 6.8 ウ軍大規模反攻に着手 6.23 「ワグネル」反乱？ 7.12 G7ウクライナ加盟再確認 7.17 クリミア大橋一部損傷 露「穀物合意」の停止を通告 8.20 蘭国、丁抹国、F16 供与 8.23 プリゴジン氏死亡（暗殺）	2.18 北「火星18」（固体燃料）発射 3.10 習政権3期目発足 3.12 北「火星18」発射 5.31 北軍事偵察衛星打ち上げ失敗 7.12 北ICBM「火星18」か最長74分飛行（固体燃料の新型ICBM） 7 中国「国家反スパイ法」施行 7.25 中国秦剛外相を解任 7.27 朝鮮戦争休戦70周年軍事パレード 8.24 北軍事偵察衛星打ち上げ失敗 ※北7月迄に計11回（計15発）弾道ミサイル発射 9.13 金正恩訪露 プーチンと会談	2.10～12 米領空に中国偵察気球 4.4 芬蘭国NATO加盟 6.22 米印首脳会談対中で協力 7.10 瑞典国NATO加盟 7.11～12 リトアニアNATO首脳会談 7.16 TPP英国の加入を承認 8.5～6 ウクライナと平和会合（サウジ） 8.22～24 南アでBRICS首脳会議（6か国増へ） 9.5～7 ASEAN首脳会議（インドネシア） 9.6 ASEANプラス3（日中韓） 9.9～10 G20サミット（インド） 9.18～22 第78回国連総会2023

名古屋で学ばれている三商株式会社社長の伊藤満琉氏から「ここに今から九百年以上も前（平安時代末期）に書かれた日本独自の兵法書『闘戦経』という書物があるの、この解説を勉強の題材にして欲しい」という要請で一冊の本を手渡されました。著者は、朝廷の書物の管理役であった大江家三十五代当主の大江匡房（二〇四一―一一一一）で、平安時代末期に書かれた日本独自であり、最も古の兵法書です。大江家は武経七書（孫子・呉子・尉繚子・六韜・三略・司馬法・李衛公問对）等、中国の兵法も管理している兵法の大家でもありました。



M&U スクール学長 梅谷 忠洋

（フルート奏者・「おもいで酒」作曲家）

連載エッセイ

夕暮れの街 その101

新渡戸稲造・武士道(89)

現在もそうですが、当時も「孫子」が広く世に知られていました。大江匡房は孫子の説く勝利三原則（廟算・敵に乘ずる・兵は詭道なり）の中の三つ目の項「兵は詭道なり」つまり「戦いの基本は詭道（敵を欺くこと）」にある」というこの一節は、どうも日本人のスタイルではないと考えたのです。「戦い」というのはただ勝てばいいのではない。ズルをして勝つのではなく正々堂々と戦うべきである」と中国の考え方ではなく、「日本人独自の戦うスタイル」を宣言しました。それらをまとめた書物が、『闘戦経』なのです。そうした思いを匡房は『闘

戦経』を入れた箱に金文字で書いています。「闘戦経は孫子と表裏す。孫子は詭道を説くも闘戦経は真鋭を説く。これ日本の国風なり」私自身この書を読み進む内に、平安時代の終わりにこれほど精神性の高い戦いの書物が書かれていたこと、そして九百年以上の時を超えた現在、それを読めるといふことに感動しました。

平安時代後期、天皇、そしてその縁者や貴族に仕え、彼らを護る（さぶらう）ことを生業にした事から生まれた「侍（サムライ）」「武士」は、自分達の素行に悪い印象が定着すると、雇い主である貴族との関係が悪化し、安住の地を得ることが難しくなることもあって、平たく言えば「人殺し」が主な職務内容である故に、真つ当な生き方を選び、正々堂々とした生き様の「武士道」の土台を形作ってゆきました。この当時、「武」ということをテーマにしてそれを順序立てて整理し、しかも武士達、一人ひとりの心構えとして執筆するというのは、このような社会情勢が背景にあったのだと考えます。従って、この『闘戦経』を読み進むと、そんな考えを一章ごとに気合いを込めて書いたことが、今もビシビシと伝わってきます。

それぞれの言葉自体は決して長いものではありませんが、それだけに自分の体験に引きよせて読むことが出来るのです。そこには、私たちが人生を歩む上で、あるいはビジネスの場でも十分に通用する日本人としての心構えが明記してあります。そして、この『闘戦経』を読んで感動するのは、『武の精神』が約九百年にわたって、今も私たちの精神の根底にあり続けているということ。平安時代、武士が誕生した

当初から、江戸時代、そして明治以降の人達にも『武の精神』は、十分に残っていました。私も明治生まれの方々、そして、自衛隊関係者の方々を大勢懇意にして貰っていますが、まさに、皆さん「武の人」です。戦後の復興、そして高度成長を支えた日本の賢者も又、『武の精神』をもって国内だけではなく、世界の企業と渡り合ってきました。そして現代、人々は随分と柔らかくなってきたように思います。しかし、表面に出てこなくとも、日本人の心の奥底にはまだ、『武の精神』が残っていると強く信じています。その証拠に、『闘戦経』を読むと一つひとつの言葉が心に重く、熱く響いてきます。そんな役割を果たす『闘戦経』である故に、多様化した現代社会の中で必勝の念願を抱いて戦っているビジネスパーソンにとっては、必読の書である

「武」という文字は「矛（ほこ）」を「止める」という言葉からなっています。つまり「矛を収める」という意味を含んでいるのです。つまり、「武の力」は混沌としたもの（カオス）に秩序を与え、「文」という美しいものに作り替えていくことを著しているのです。キリスト教の『聖書』、また日本の原点を示した『古事記』の冒頭の部分でも「世界のはじめは混沌としていて、やがて『天と地』に分かれて秩序が生まれてくる」と書かれています。世界の多くの神話に共通することは、混沌から整合へと示されているが、そこに、『何らかの力』が加わって、『秩序』が生まれる。秩序がないと文明や文化が生まれても、決して発達しません。その秩序を生み出す根源の力が「武」の力である故に「武」は破壊するだけではなく、それによって何かを産み出し、平和を保つ（＝文）、ということになるのです。

昨年策定した「安保3文書」と防衛費を「GDPの2%」にする決定はわが国防衛政策の大転換というべき快挙である。しかし、その完成が5年後であり、わが国周辺の国際軍事情勢は有事を5年間も待つてくれないだろう。従って、緩慢な対応ではなく早急な抑止力の増強が必要になってくる。予算も要らず、その気になりさえすれば時間も余り掛らずに得られる緊急な抑止力は、『憲法を改正して自衛隊を国軍に昇格させることに尽きる。抑止力として何にも優る「国家決意」の表明である。●今のままでは自衛隊は戦力発揮できない。自衛隊の任務は列国の軍隊の任務と同じである。日夜訓練を重ねて精強な戦力を維持し、発揮することを

求められている。それなのに、憲法では「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」旨が規定されている。この矛盾が一丁目一歩地である。強くなつて戦力になると憲法違反になるということだ。この矛盾にすべての自衛官が気付いて何とかして欲しいと願っているが、公務員の憲法厳守義務があるので現役の時には憲法改正の声を挙げるのが出来ない。そしてOBになって主張しても聞く耳を持ってくれない人は少ない。●警察と軍隊の違い自衛隊は警察予備隊として発足した経緯から軍隊の任務を担いながら警察的な制約を多く抱えている。先ず任務上、警察は法の番人だからすべての行動を法律が規定している。これをボジ

タイプ・リスト方式という。一方軍隊はネガティブ・リスト方式といって国際法に禁止されていること以外は、一つ一つ法律に基づく任務を与えられなくても軍事行動を出来る仕組みになっている。タイプ・リスト方式という。一方軍隊はネガティブ・リスト方式といって国際法に禁止されていること以外は、一つ一つ法律に基づく任務を与えられなくても軍事行動を出来る仕組みになっている。

りだ。だから航空自衛隊の緊急発進では領空侵犯機が領空を犯しても武器使用が出来ず、敵に撃たれるまでは射撃を開始できない。武器使用も「警察比例の方式」で制約されている。警察は対象が国民なので、

このように至る所で必要最小限の縛りが掛かっているが、軍隊には必要最小限度では立ち行かない行動が多い。更に軍隊では建前のせいで列国のように大使館に駐在武官を置けず、自衛官が外務省に出向という形で、所謂「武官」を大使館に置いていた。

この組織すなわち自衛隊を守るのが自衛隊か」と擲論している。今後、欧米やアジアで軍事的かつ国際的な結束が必要となり、共同訓練や共同作戦が頻発することは確実だろう。その際に周りがすべて軍隊なのに自衛隊だけが国軍でなく警察モドキの組織であつては行動上支障が多いことは明らかである。一方、自衛隊の士気の面でも、国軍への昇格は大いに士気を高めるであろう。以上のように挙げていけばきりが無いほどの不都合な事象が現憲法下で起きているのだ。一日も早く憲法を改正して、自衛隊を国軍に昇格させ、その能力を最大限に発揮させるのが費用対効果から言っても必要と思う。

普通の国家はどんな小さな国でも軍隊を保持している。G7の一大国である日本が自衛隊は保有していないのど軍隊を保有していないのはとても異常なことなのだ。わが国では「平和教」信者が多いが、「平和、平和」と唱えていけば、何の行動をしなくても平和が達成できるという時代はもう過ぎ去つたのだ。（次号に続く）

この文章は一般社団法人「日本安全保障・危機管理学会」機関誌令和5年夏号に掲載された中尾時久氏の投稿記事「当面の抑止力は憲法改正で」の中から本人の許可を得て一部抜粋した文章である。

プロフィール1935年3月生まれ。群馬県出身。防衛大学校1期生。陸幕装備部長、第6師団長、陸上幕僚副長、中部方面総監を歴任。1991年退官。

元陸将 中尾 時久

武器使用にあたっては相手の暴力に比例する程度の武器使用をするよう規制している。一方、軍隊は敵が対象だから「牛刀をもつて鶏肉を裂く」ような圧倒的殲滅で武器使用が必要にも拘わらず、必要最小限度に抑え

また残念なのは軍隊固有の名称が使えず、歩兵が普通科、工兵が施設科、砲兵が特科というわかり難い名称を使用していることだ。階級の名称も大佐、大尉等使えずに1佐、1尉とわかり難い呼び名にしてある。すなわち憲法の制約で「軍」と「兵」は使用禁止なのだ。また自衛隊という呼称は外国軍人にしてみれば、「国土国民を守る組織ではなく自

「心に武を秘めているか」……この大命題を、『闘戦経』は一章ごとに問いかけてくることを感じるでしょう。▼「武」は天地の始めからある「私たち日本人の「武」というものは、天地の始めからある。その「武」の力によって天と地が分かれたのだ。」という書き出しで始まるこの『闘戦経』は、我々人間の精神の存続、日本」という国家の在り方、そして、天地の道理に至るまで、『法（大宇宙の摂理）と我の関係』が明瞭に書かれています。そこには「私たち日本人の『武』の道はすべての根源であり、色々な考え方の大本になるものである」と喝破しています。

「武」という文字は「矛（ほこ）」を「止める」という言葉からなっています。つまり「矛を収める」という意味を含んでいるのです。つまり、「武の力」は混沌としたもの（カオス）に秩序を与え、「文」という美しいものに作り替えていくことを著しているのです。キリスト教の『聖書』、また日本の原点を示した『古事記』の冒頭の部分でも「世界のはじめは混沌としていて、やがて『天と地』に分かれて秩序が生まれてくる」と書かれています。世界の多くの神話に共通することは、混沌から整合へと示されているが、そこに、『何らかの力』が加わって、『秩序』が生まれる。秩序がないと文明や文化が生まれても、決して発達しません。その秩序を生み出す根源の力が「武」の力である故に「武」は破壊するだけではなく、それによって何かを産み出し、平和を保つ（＝文）、ということになるのです。

